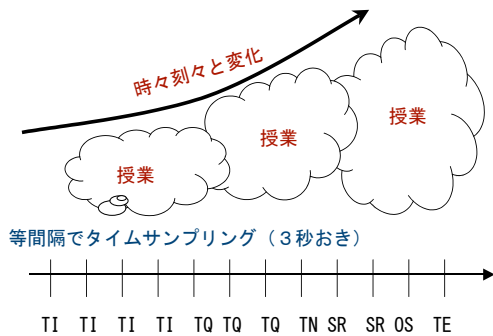


授業分析の多様なアプローチ —量的研究と質的研究—

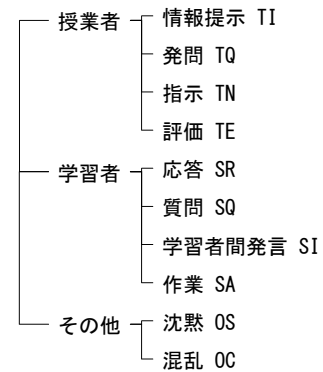
1 量的な手法の一例としてのカテゴリ分析

- カテゴリ分析とは？
 - ・ 行動主義のパラダイムのもとで、1970年代ごろにされる。
 - ・ 予め定めたカテゴリで、出来事をコード化する。
 - ・ 一定時間ごとにコード化した時系列データを、量的に分析。
 - ・ 頻度、遷移パターンを集計。
 - ・ 授業の特徴を大きくつかむ。
- カテゴリ分析の概念



何が多い？ 次に何がくる？

カテゴリ体系（一例）



教師による情報提示が12秒つづき、教師による発問が9秒続き、指示（3秒）のあと、6秒間、学習者が応答し、沈黙（3秒）をはさんで、教師が評価（評価）。

- どのようなカテゴリを用いるべきか
 - ・ 研究の立場、目的、授業の特性にもとづいて決定。
 - ・ 多くのカテゴリが提案されている。
 - ・ フランダース、OSIA、・・・、
 - ・ 研究の量に応じて、カテゴリ体系も多種多様
- カテゴリとして満たすべき条件
 - ・ すべての事象がどれかに当てはまる
 - 包括的なカテゴリ体系
 - ・ その他を付け加えれば、この条件はみたされる。
 - ・ ただし、その他が広すぎる場合は、カテゴリに分類する意味が薄れる。
 - ・ 1つに当てはまったものは、他にはあてはまらない
 - 相互排他的なカテゴリ体系
 - ・ Aに該当するならば、A以外には該当しない
- カテゴリ分析における信頼性
 - ・ 信頼性
 - ・・・・ 誰がいつ判定しても、できるだけ同じコードになる

- 量的な研究は客観的か？
 - ・ だれがやっても同じ結果になる点で、客観的。
 - ・ ただし、主観もはたらいている。
 - ・ 量的研究
 - ・ 主観 強 : 用いるカテゴリーの設定
↓
 - ・ 主観 弱 : コード化
↓
 - ・ 主観 0 : データ処理、集計
↓
 - ・ 主観 弱 : 結果の理解
↓
 - ・ 主観 強 : 考察 意味づけ
 - ・ 量的な研究の長所は、
主観がはたらかないのではなく、
主観がはたらく段階と、はたらかない段階を切り分けられること。

3 質的な分析の一例としての名大教育方法研究室の授業分析

- 授業記録にもとづく授業分析
 - ・ 事実にねざす
 - ・ 多様なデータを用いる
 - ・ 主観を排除しない
 - ・ 整合的に解釈する
- ※ 第6回、第7回で、詳しく述べる。
- 質的な研究と主観
 - ・ 分析者の経験や直観など多面的かつ主体的な能力を動員して分析
 - ・ 分析者の力量に大きく影響され、分析プロセスを明示的に記述するのが困難

4 授業の質的研究の例

- エスノグラフィー
- アクションリサーチ

5 量的手法と質的手法の対比

- 量的手法を用いた研究の長所（質的手法の短所）
主観が入る部分と入らない部分が明確に分離できる（できない）
- 質的手法を用いた研究の長所（量的手法の短所）
固有の状況・文脈に応じながら
分析者の知識・経験をフルに活用し
総合的かつ柔軟に分析できる（できない）